

## 絵本選択の判断基準の認識と絵本に関する知識量の関係について

緒方 慎吾

本研究の目的は、商品に対する知識量と、商品を選択する際に用いる重視度の自覚の関係を明らかにすることである。さらには、重視度に基づき、情報、特に商品の検索および選別に効果的なランキング生成方法を提案することである。一般的に商品の種類毎に複数の特性が存在する。商品を購入や選択する際、複数ある商品から1つまたは少数の商品に絞り込む必要があるが、どの特性を重要視し、どの特性を軽視または無視するかは人によって異なる。本研究では、重視度とは、商品の特性毎に重要視する度合いを数値化した値を表したベクトルであり、その大きさは商品の特性の数である。対象商品として絵本を用いる理由は、短時間で複数の商品の評価が可能な点である。そして、絵本の特性は、絵、文、内容、レイアウトの4項目とした。

口コミサイトのランキングは商品を選択する際に有用で、商品に関する効率的な情報の検索手段を提供する。商品の種類毎に複数のランキングサイトが存在し、ランキングの生成方法も多様である。本研究で扱う重視度を用いることで、既存のランキング方法よりも利用者の要求に合ったランキングが生成可能である。しかし、人は自分の商品毎の重視度を把握しておらず、対象商品の特性毎に重要視する度合いを認識できていない問題がある。

対象商品の重視度を調査するために、被験者30人に対し8冊の絵本を用いて、(1)絵本を読む前、(2)絵本を読んだ後、(3)実際にランキングを作った後、の3通りの重視度を調べた。実験では、絵本に関する知識量、絵本に対する重視度と各本の評価とランキング(本人ランキング)、ランキングを作成するときの基準を調査した。絵本を読む前の重視度を基に作ったものを前ランキング、読んだ後のものを後ランキング、本人ランキングを作ってもらった後のものを個別ランキングとした。本人ランキングに対して、その3つのランキングと絵本ナビという口コミサイトのランキングの順位相関係数を計算し、関係を分析した。

その結果、絵本ナビのランキングは絵本ナビ利用者が必要としている情報を的確に提供できていないことがわかった。代わりに、重視度を基にした前ランキング、後ランキング、個別ランキングを使うことで、効率よく商品を選択できることがわかった。さらには、絵本についての知識がない人は前か後ランキングを、知識がある程度ある人は個別ランキングを、知識が豊富な人は前ランキングを使うことが有効である結果が得られた。しかし、厳密には個人差が見られたため、個人毎の重視度を個別に調査する必要性が考えられる。

本研究で行った重視度把握の機能を商品のランキングを提供するサイトが提供することで、既存のランキングよりも、個人に合ったランキングが生成できることから、より有効な情報を提供できる。今回は、絵本を対象にして実験を行ったが、他の商品に対する有効性や、同一人物が複数回、重視度把握を行う場合の再現性について検証する必要がある。

(指導教員 真栄城哲也)